

持続可能な人間工学目標2040(SEGs2040)パブリック・コメントとその対応

【回答期限】:2022年5月18日(水)～5月31日(火)

【回答先Googleフォーム】

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd6G3ocin_dSdEyHJvvaCpy03U_W2PEbRw6RFf3DwHw4dyEsEg/viewform

No	持続可能な人間工学目標2040 (SEGs 2040)の提言書についてご感想・ご意見・ご提案など。	会員種別	専門家資格の有無	対応方針
1	(1)全体にシステムズアプローチが基本となっていますが、この用語の解説があったほうがよい気がします。人間工学会会員はほぼわかっているかと思いますが、他の分野では人間の組織のみを対象とした使い方をしているところもあるようです。 (2)最初のwell-beingのアイコンですが、十字と緑の組み合わせは安全をイメージしてしまいます。人間が対象ですので、人の形はうまく使えないでしょうか？	正会員	認定人間工学 専門家	ご意見ありがとうございます。 (1)システムズアプローチの概要について追加しました。 (2)目標9個のアイコン全てをオリジナルへ変更しました。
2	SDGsの取り組みは国からの号令があり、いろんな単位で検討がなされており、人間工学会でも必須の取り組みと理解しています。よく考えられたことと感じましたが、直観的にネガティブな印象を持ってしまいました。(1)まずこれは誰に向けた内容なのだろうかと思いました。本来は社会に向けての発信として、人間工学会の決意表明であるはずが、とても内向きに思われました。一般の人々を対象に(人間工学を知らない人)内容や表現を練り直したほうがよいと思います。(2)特に日本の中での活動しか考えていないところがありますが、SDGsの中身を見るととても国内だけでは解決されないテーマばかりと感ずいていますので、果たして、真に問題解決を果たそうとしているようには感じられませんでした。これを国際的な取り組みとしてIEAや各国人間工学会と連携していくことが望まれます。(3)一般の人々はSDGsテーマが17個あり、いろんなアプローチがあることは何となく気づいていると思いますが、その中身などは知る由もないレベルの方が多いのではと思います。そんな中で、人間工学会独自の分類分けをして理解されるのだろうかかと疑問を持ちました。もっとわかりやすい訴求が望まれます。 人間工学会がこのような活動をしているのは崇高なことと思っていますし、内容は間違っていないと思いますが、上記の点を考慮して世に発信すれば、訴求力が増して、人間工学会のプレゼンス向上に寄与するのは間違いないと思います。言葉が過ぎたかもしれませんがご一考願えればと思います。	正会員	無し	貴重なご意見を頂きありがとうございます。 (1)(3)今回の提言書における対象者は、一般の人々ではなく人間工学に関わる組織・学会員・認定専門家等を主としています。ターゲットを明確にするように、新たに、ビジョンを活用していただきたい方への説明文を追加いたしました。 (2)ステークホルダー間の連携は必須であると考えています。今後の活動で連携して取り組んでいただければ幸いです。
3	大変素晴らしい取り組み、それに基づく資料を拝見し、関係者の皆様のご努力、ご尽力に心より敬意を表します。 なかなか精読はできておりませんが、一読する中で、作り上げるまでのプロセス、集約の仕方、9つの目標の有機的な繋がりの示し方の3点が印象に残りました。 作り上げるまでのプロセスでは、公募によって集まった比較若い方を中心とした多様なメンバーによって、従来の人間工学の枠組みにとらわれることなく、未来志向で検討を重ねられたことが分かります。チームコミュニケーションツール(Slack)の活用や、少人数によるグループディスカッションなど、ミッション達成に向けて、意見が出しやすい工夫もされていると感じました。 集約の仕方では、OODAIによる整理が行われており、各目標の濃淡をうまく調整して、統一感をもたせている点もよいと思いました。特に、アクションに力点を置いている点は素晴らしい、具体的な取り組みに落とし込みやすいようになっていると思います。目標管理の点からは、必要に応じてとはなりますが、多くの項目で、KPIも設定できるようにも思います。 とりわけ印象に残ったのは、9つの目標の有機的な繋がりの示し方です。SDGsもそうですが、どうしても目標ごとの単独の取り組みになりやすいのが実態で、すべて繋がっているということは、概念としては理解できてても、具体的な繋がりが見えにくいと感じていました。人間工学は、総合力で勝負できる学問だと思います。SEGsでは、「E」の文字になぞらえて、有機的な繋がりがとても分かりやすく示されていると感じました。 最後に、ゴールまで約18年ありますので見直しをどういったタイミングでどうやってかけていくのかという運用面について、良い仕組みを作ることも大事だと感じています。突飛すぎずかもしれませんが、新規会員(入会申込書に関心を書いてもらう)に、1つか2つの目標に必ず関わってもらうなど、裾野を広げる工夫、草の根的な活動があってもよいかもしれません。運用を通じて、その時々次世代のメンバーが人間工学の未来を自分事として考える機会を得ることができれば、大変、実践的な学びとなり、それぞれの成長、人材育成にも貢献できると考えます。 以上、大変勝手なことばかり申し上げて恐縮です。ここまで取りまとめたくださった関係者の皆様、大変お疲れ様でした	正会員	認定人間工学 専門家	提言書作成の取り組みについてご賛同いただきありがとうございます。KPIの設定や新規入会時の確認など、これからの人間工学会の活動に取り入れることを今後の課題とし、SEGsを普及していければと思っております。
4	本学会、本学問分野が、SDGsのためにどのように役割を果たしうかが大変よく理解できました。これを機に、自分自身の専門性がSEGsのためにどう貢献できるのかを考えていきたいと思いました。	正会員	無し	ありがとうございます。自身の専門性を活用したSEGsを個々が考え取り組んで頂きますと幸いです。
5	素晴らしい内容拝見させていただきました。今後の社会に必要な取り組みと感じました。すべての詳細を把握しているわけではありませんが、一点気になりました点です。SEGs Goal1の「120歳でも誰もが活躍できる社会の実現」とありますが、仮にそこまで平均寿命が伸びたとしても、その付近の年齢ですごく社会で活躍したいと考える人間は少ないのではないかと愚考しました。私ならいつお迎えがきてもいいように穏やかに過ごしたいと思います。決して若い頃のパフォーマンスがずっと続くわけではありませんので。	正会員	認定人間工学 準専門家	ご意見ありがとうございます。平均寿命が延びる中で、個々の選択肢が広がるような環境整備が重要だと思います。適切に意図が伝わるように目標1の解説にて、「働くことを望む人たちに多様な選択肢が提供され」と補足を行いました。
6	SDGs課題解決における人間工学の役割・目標を学会を挙げて明示することは、国民一人一人がSDGsと向かい合っていく際のビジョンやアクションの拡充に十分に寄与するものと考えられ、社会的に大変意義のあることと感じました。今回の提言書を起点として、今後も人間工学目標が継続して更新されていくことが望まれます。	正会員	無し	ご意見ありがとうございます。今回のSEGsの目標に向かって、定期的な見直しや修正を重ねて更新していきたいと思っております。
7	国連が提案したSDGs実現に向けて、人間工学領域の先生方が実施すべき具体的な内容が盛り込まれた大変意義ある提言書だと思います。特に、well-beingの目標である120歳でも誰もが活躍できる社会の実現は、労働人口が減少し続けるこれからの我が国において非常に重要であると思われます。一方で、エイジマネジメントの視点は、高齢者だけではなく全世代を通して必要な対策を必要な世代に実施するという考え方であることから、高齢期のみならず若年層からの縦断的なデータベースを構築することが肝要であると思われます。他の学術団体、行政、民間企業との連携をとりつつ、人間工学領域の先生方がリーダーシップを発揮してSEGs2040の実現に向けて取り組んで頂ければ幸いです。	非会員	無し	ありがとうございます。 エイジマネジメントについて、目標1の取り組みすべきアクションの表記を修正しました(1-3a, 1-3b)。更なる発展に寄与できるように取り組んでいきたいと思っております。
8	どうすれば人間工学がSDGsの目標達成に貢献できるかが具体的かつわかりやすく提言されており、大変勉強になりました。インフォグラフィックや色彩のデザイン、SEGsというコピーも美しくとても読みやすかったです。このままでも十分素晴らしいのですが、SEGsの各目標のロゴやインフォグラフィックの中で、パワーポイントのフリーアイコンとしておなじみのものが一部使用されているので、予算があるようであれば、完全オリジナルの画材を作成・使用してもよいのではないかと感じました。	正会員	無し	ご意見ありがとうございます。今回はSEGsの9目標のみ、オリジナルアイコンへ変更いたしました。
9	SDGsについては、人間工学会としての方向性を示していただき、学会の方向性が明確になるとともに、自らの今後の業務においても大変参考になります。また、そこからSEGsとして、より深く理解できるように示していただいたことには本当に素晴らしい取り組みと思います。様々な活動でこのSEGsを意識することで、会員としてフィードバックできればと思います。委員の皆様には丁寧に取りまといただき、感謝申し上げます。	正会員	認定人間工学 専門家	ありがとうございます。今後皆様にSEGsを意識した取り組みが出来るようにしていきたいと思っております。
10	全体へのコメント 1. 1ページ表紙の上から4行目:「人間工学未来アクション・ビジョン」の下に、「社会に人間工学の視点を！」を、JESのキャッチコピーとして入れませんか？ 2. 本委員会は、JESとして次世代人材登用も意図した公募型で正副委員長と各グループリーダーで構成されたようです。実際、3ページの委員名簿を拝見したとき、実にフレッシュなメンバー構成に驚き、執行部に敬意を表するとともに、明日のJESの姿をみる思いでした。 3. 4ページ序文11行目:「日本人間工学会が国内外の学術団体に先駆けてその活動方針を提言することは、大きな社会的意義があると考えます。」ですが、「先駆け」と記すほど調査を網羅していますか？例えば、日本学術会議では、「科学と社会委員会 持続可能な開発目標(SDGs)対応分科会」を設置しています。また、下記サイトでは、SDGsへの意志表出に関連した種々の学術会議活動を紹介しています。 https://www.scj.go.jp/ja/scj/sdgs/index.html 提案→そこで、本JES提言書では、11行目の「国内外の学術団体に先駆けてその」を削除してはいかがでしょうか。序文末尾に、「SEGs 2040が次世代の…羅針盤となり、人間工学が社会的使命を今後も果たしていくもの」と格調高く謳っており、「先駆け」がなくとも提言の説得力は十分あると思います。	正会員	認定人間工学 専門家	詳細にご意見を頂きありがとうございます。 1に関して、今回は学会員向けの提言書のため、今後一般向けに作成した際には取り入れたいと思います。また、「本提言書SEGs2040を活用していただきたい方」のページを新設し、「人間工学の視点を社会の常識に」するために利活用頂きたい旨を記載しました。 3に関して、確かに活動を始めている団体もありますので、「先駆け」という言葉は削除いたしました。貴重なご意見、ありがとうございました。

No	持続可能な人間工学目標2040 (SEGs 2040)の提言書についてご感想・ご意見・ご提案など。	会員種別	専門家資格の有無	対応方針
11	まずSEGs2040や9つのアイコン、Eモデルが分かりやすく導入としてとても良いと思いました。また各目標もOODAの割り振りにより内容がまとめられており、課題やアクションが分かりやすく、その内容も人間工学として最適なものと感じ、読み進める中で、自分自身の研究課題も再確認できたこともありました。また他分野の方にも分かりやすく説明がされており、提言書として素晴らしいと思います	正会員	無し	提言書にご賛同いただきありがとうございます。
12	今回ご提案いただいた内容は、まさに現在必要とされる重要な取り組みとなると考えます。一時的な効果を考えるのではなく、今後持続的に目標を達成していく仕組みづくりがどの分野においても求められると考えます。私の分野では、健康づくり(身体活動促進)においてもWHOより世界行動計画が2018年に提案され、「アクティブな社会を創造」「アクティブな環境を創造」「アクティブな人々を育む」「アクティブなシステムを創造」の4つの目標を掲げ、システム構築のために多分野連携をキーワードとしています。行政(スポーツ、保健、教育、都市計画、交通、環境)とステークホルダー(学校、企業、団体、市民ボランティアなど)による連携となります。身体活動促進のためのシステムアプローチの考えであり、アクティブなシステムの構築を基盤とし、その上でアクティブな社会や環境を整備することで身体活動やスポーツを行う人が増え、アクティブな人々が生まれ、持続的なQOL向上に繋がる社会になると考えられます。人間工学の分野においても、人々の持続的な幸せ(Well-being)のために更なる検討が必要となる考えられます。以上、感想だけを述べさせていただきますことになり申し訳ありませんが、今後ともよろしくご願ひ申し上げます。	正会員	無し	ありがとうございます。ご教示頂いたWHOの身体活動計画でもシステムズ・アプローチが採用されています。その事も含め、「システムズアプローチ」の解説ページを新設し、WHOの提言書についても触れました。今後様々なステークホルダーと連携してSEGsに関する取り組みができればと思っています。
13	5/27に開催された産業衛生学会のエイジマネジメント研究会にて、エイジマネジメントを進めるためには、「労働適応能力とのマッチング」を行うための指標・ツールが必要という話題がありました。目標1の課題に追加しても良いかもしれません。			目標1の課題に追加しました。
14	持続可能な人間工学目標2040をご提案頂き、ありがとうございます。人間工学会からこのような提言ができることをうれしく思いますし、人間工学会員のひとりとして目標の実現に貢献したいと思います。 1:目標年についてのコメント SDGsは2030年までに達成すべき目標を設定しているのに対して、SEGsは2040年までに達成すべき目標を設定しているため、2030年になったときにSDGsとSEGsに齟齬が生じないでしょうか。 2: Well-beingについてのコメント Well-beingに記載されているアクションの内容は、高齢者の社会参画についての視点が多くなるように思うのですが、疾病や障がいを持っている若い方々が社会に参画するための視点も大切にしたいと感じました。疾病や障がいを持っている方の支援に資することは、介護者の社会参画にも寄与できると思います。人間工学は医療や看護との連携も行われていますので、疾病や障害を抱える方々のWell-beingに貢献できると思います。 3: Educationについてのコメント 人間工学では聴覚障がいや視覚障がい等の方を支援する研究がいくつかなされています。疾病や障がいの有無に関わらず全ての人が質の高い教育を受けることに人間工学が貢献できると大変うれしく思います。SEGsに記載されている目標からズレた意見となりますが、障がいや疾病を抱える生徒や学生にも質の高い教育を受ける権利が保障されることを願ひ、意見を述べさせていただきます。 4: Gender equalityについてのコメント Gender equalityは重点的に取り組みたいと考えます。性差については、既に記載されている通りEducationでも取り組むべき内容ですし、Socio economic valueやInfrastructure等でも性差を考慮した取り組みを実践したいと思ひます。 5: Socio economic valueについてのコメント Socio economic valueには子育てをしながら働けるという視点も必要だと感じます。SEGsの議論の中に「子育て」というキーワードが出現して欲しいと感じました。また、Socio economic valueでは人間工学で蓄積されてきた労働と健康の関連性についての研究成果や研究方法を活用できると思いますので、新しい働き方と健康の関連性についての研究をSEGsの目標達成につなげていきたいと思ひました。 ワーキンググループ内の議論ポイントである『動きがいの本質は、好奇心を持って試行錯誤する探求脳を刺激することにあり、「失敗してもよい、チャレンジしてよい」という心理的安全性を担保することである。』という考え方に共感します。この人間工学の考え方は、自身が働く分野にも必要だと考えますので、人間工学を普及させていきたいと思ひます。	正会員	無し	詳細にご意見を頂きありがとうございます。1について、今後SDGsの見直しが入ると思われますので、それに合わせて随時更新していければと思っています。 2について、疾病や障がいを持っている方も含めたすべての人が対象と分かるよう、各目標の記載を一部修正いたしました(年齢・性別・障害…の有無を包摂したなど、表現に追記)。 5について、「子育て」という重要なキーワードのご指摘ありがとうございます。子育てを配慮した内容を一部入れました。
15	とても簡潔にまとめられていて、内容的には分かりやすいと思ひました。また、白文字を用いている箇所がありますが(解決すべき課題とマイルストーン)、印刷するときに文字が細くなりますので、もう少し大きな文字であるとさらに良くなると思ひました。とはいうものの、とても力作であると思ひます。	正会員	無し	ご意見ありがとうございます。フォントをユニバーサルフォントにしました。
16	人間工学領域でのGoalと課題が的確に示されたと感じました。ただし41課題、103アクションとなると、実際に取り組む際のマンパワー不足が懸念されました。人間工学会 会員数・実働数の規模を凌駕しているように思えます。しかしながら、これらの課題は、より大きな社会規模で取り組んでいくべき問題とも思ひました。今後、産官学民の連携を意識した、大規模で広い視野を持った活動に発展されることを祈念しております。 また「次世代へバトンを繋ぐ」ということばに重みを感じました。多くの心理学科が、公認心理師対応のため開講科目を整理・統合しており、心理学科に「人間工学」を隔年でも開講し続けることが年々厳しくなっております。今回の提言をみて、心理学領域からも、人間工学のバトンをつなげられるよう、もう少しがんばらねばと励まされました。今後の研究活動の際の重要な視点としたいと思ひます。 大変な作業であったと思ひます。今回の提言に携わってきた理事の皆様、次世代を担う若手会員のみなさまに、あらためて敬意を表します。	正会員	認定人間工学専門家	ありがとうございます。「本提言書SEGs2040を活用していただきたい方」のページを新設し、多くのステークホルダーの皆様に見てもらい、協働して取り組んでいただけるように記載しました。各領域が連携し取り組んでいけるような土台となる提言書として活用いただければと思ひます。
17	SDGsに向けて人間工学という学術領域が支援、貢献できることを、学会主体で発信するという試みは、他ではあまり見たことが無く、画期的で、すごく良い活動だと思ひます。短期間で、これほどの内容をまとめられた委員の方々の努力や熱意に感服いたしました。課題やアクションが大変多岐にわたり記載されているので、このすべてを人間工学会がカバーし、実行することが出来るのだろうか、もう少し絞っても良かったのではと思う点もあります。まずは、成すべきと考えられることを記載し、それに向けて努力するとの高い志の元作成されたのだと理解しております。 学会関係者各自が人間工学研究者、技術者として、どこに着目し、どんな貢献をしていくのかといったことを考えたり、議論したりすることが出来るきっかけにもなるかと思ひます。今一度、自身の胸に手を当て考えてみたいと思ひました。	正会員	認定人間工学専門家	ありがとうございます。今後SEGsに取り組む際にはアクションを更に検討していただければと思ひます。
18	概念からアクション項目まで、丁寧に作り上げられた提言書と思ひます。本邦学会の活動としても希有な、印象的な活動と存じます。作成に携わられた皆様のご尽力に感謝申し上げます。 SEGs概念構造モデルが、9つの人間工学目標の有機的な繋がりを良く表現されており、これがErgonomicsのEで表現されることが大変おもしろいと思ひます。ただ、提言書を読み進めてそれぞれの細分化されたアクションまでたどりつくと、(各目標内での循環はできそうなのですが、)例えばその隣の目標との繋がりを意識しにくく感じます。概念から目標、課題、アクションへ、逆にアクションから概念へ、階層の行き来も意識できる形で活用できれば、1つのアクションを入口に物事に取り組み始めた時に、じつは別の目標のアクションとも並立している(あるいは対立している)こと等、深掘りして取り組めるのではないのでしょうか。 また、実践の学問という視点で人間工学を捉えた場合、グットプラクティスのような、SEGsの考えを活用した取り組み事例や、取り組み方のワークショップ等のセミナー／普及活動を実施していただけますと幸いです。	正会員	無し	ありがとうございます。各目標との繋がりが分かるような形、活動・取り組み事例を見える化するための方法を今後検討していきたいと思ひます。